

バギン Pugginはパグという犬です。たくさん友達がいます。みんな

は小さい子供の頃から今まで一緒に遊びました。



毎日、朝の会議かいぎがあって、みんなで今日は何をやるか話し合
って、決めます。だから、みんなは毎日、一緒に決めたことをし
ます。いつもとても楽しいけれど、最近 Puggin はちょっと疲つかれて
います。どうしてか Puggin は分かりません。



Puggin と友達がいつも一緒に遊ぶという理由りゆうは「一人」とい
うことを怖こわがっているからです。

「ママは一人で遊んでいた時、蜂に刺されました！」とロー
ヴァが言いました。「痛かったし、一人で寂しかったそうで
す。」

「兄は一人で森へ行きました。それで、迷子になってしまいま
した！」とデイジーが付け加えました。「ママとパパは何時間も
探して、やっと兄を見つけたけど、兄は一人で怖くて、寒かった
そうです。」

「知り合しあいの人ひとは一人ひとりで湖みずうみへ行いきました。」とペッパーが言
いました。「カモ達かもたちの暴走族ぼうそうぞくに会あってしまいました。そして、カ
モ達かもたちにいじめられまこした！怖こいよね！一人ひとりでいるのは嫌いやです！」



「私も！」みんなは声をそろえて言いました。
でも、Pugginの内心ないしんは違ちがいました。「怖こい話わばかりだけど、
本当にそんなに危あぶなくて怖こいのかなあ．．．」とPugginは思おもいま

した。「一人でいるのは怖いけど、ちょっとやってみたいと思
う．．．考えてみると、一人でいるのはもしかしたら、楽しいか
もしれない．．． どうしてか分からないけど．．．」

その夜、Puggin は寝ました。

毎日、Puggin はみんなと一緒に冒険しました。海岸へ行っ
たり、海で泳いだり、くらげに会ったり、ロブスターを食べたりし
ました。森で、オオカミのいところと一緒に遊んだり、ブルーベリ
ーパイを食べたり、地面の下にあるモグラの家でカラオケをし
たりしました。

朝、みんなは今日は一緒にどこへ行こうか決めました。毎日
みんなと一緒に新しい所へ行きました。みんなはとても嬉し
かったです。冒険は楽しかったし、友達と一緒に行ったので、怖くな
かったんです。

でも Puggin はだんだん気が重おもくなりました。だんだんみんなと話したくなくなりました。歩あるくのが遅おそくなりなって、とても疲つかれました。

ある日、朝かいぎの会議で、Puggin はみんなと一緒に遊ぶことを考えた時、耐たえられないという気になりました。

「今日は砂漠さばくへ行きたい！」と誰だれかが言い出しました。

「行こうよ！行こうよ！」とみんなが答えました。

「一人で行くのはいいけど、みんなと一緒になら．．．」と

Puggin は思いました。みんなと一緒に砂漠さばくへ行くことを考える

と、泣なきたくなりました。「できない」と Puggin は思いました。

「本当にできない。みんなと一緒に行ったら、悲かなしくなって、泣なきます。」

「砂漠さばくは熱あついので、水をたくさん持もって行いきましょうよ！」

とペッパーが Puggin に囁ささやきました。

「私は今日は行かないと思います．．．」と Puggin が答えました。

「行かないの？」とローヴァアがびっくりして聞きました。

「ええ？どうして？」

「^{つか}疲れているし、今日はちょっと．．．」と Puggin が言いました。

「^{つか}疲れているの？」とデイジーが聞きました。「じゃあ、ここにいて、^ね寝ようか？明日^{さぼく}砂漠に行った方がいいかな？」

「Puggin、^{だいじょうぶ}大丈夫か？」とみんなが聞きました。

「^{だいじょうぶ}大丈夫よ！」と Puggin が答えました。「みんなは今日^{さぼく}砂漠に行くけれど、私は一人で家にいようと思います。」

「一人で？」とみんなが^{さけ}叫びました。

「はい、一人で！」

「怖くないの？」とデイジーが言いました。

「危ないよ！」とローヴァが付け加えました。

「そうだよね！」とみんなが言いました。「みんなも Puggin と一緒にいた方がいいよ！」

ペッパーは Puggin のことをちゃんと見ました。Puggin はもう少しで泣きそうです。

「まあ、」とペッパーが言いました。「私達の家なら、安全
ですよ？ Puggin はここで寝て、私達は砂漠へ行きましょう！」

やっと、みんなは冒険しに行きました。そして Puggin は一人
で家にいました。

でも、実は、それはとてもつまらなかったんです。Pugginは寝たり、テレビを見たり、サンドウィッチを食べたりしました。



「みんなは今何にをしているのかな．．．」と Puggin はいつも考えました。「一緒に行った方がよかったのかな．．． 一人でいるのは怖くないけど、ちょっとつまらないなあ。」

うるさい声で Puggin を起こされました。みんなが戻ってきました！でも Puggin は急に隠れたい気持ちになりました。

「Puggin!」みんなが叫びました。「どう？元気？砂漠はすごく楽しかったよ！」

「ああ、そうか？」

「そうだよ！」とローヴァが言いました。「かっこいい蛇に会ったよ！」

「蛇は宇宙人がよく上陸する場所を知ってたし、教えてくれたよ！」とデイジーが笑いました。

「でもあそこへ行ったけど、宇宙人は来ませんでした。」とペッパーがごねました。

「サボテンを見たり、^{scorpion} さそりを食べたりした！」とローヴァ
が続きました。

「楽しそうだね。」と Puggin が言いました。「まだ^{つか}疲れてい
るので、もうちょっと寝^ねようと思います。みんなは元気でよかつ
た！」

次の日の朝の^{かいぎ}会議で、デイジーは「山へ行きたい！」と言
いました。

「行こうよ！」とみんなが答えました。

でも Puggin は「じゃあ、私はまだ^{さばく}砂漠へ行ったことがないの
で、今日は^{さばく}砂漠へ行ってみようと思うんだけど．．．」と言いま
した。

「ええっ！じゃあ、みんなも Puggin と一緒にまた砂漠^{さぼく}に行こう！」とローヴァアが言い出しました。



「大丈夫^{だいじょうぶ}！私は一人で行きたいんだ！」

「でも怖^{こわ}くないの？」と友達^{ともだち}のみんなが言いました。

「みんな、ちょっと待って。Pugginは一人で行きたいと言いましたよ。」とペッパーが言いました。「じゃあ、今日はみんなで山へ行きましょう！」

「でも、Pugginは. . .」とデイジーが言い始めました。

「一人で砂漠^{さばく}へ行きます」とペッパーが強い声で言いました。「みんな、早く^{はや}！山へ行く電車はもうすぐ出発^{しゅっぱつ}しますよ！」



「ありがとう、ペッパー」と Pugginは心の中で囁^{ささや}きました。
た。

Puggin は砂漠さばくに着ついた時、蛇へびに会いました。

「ああ、もう一匹いっぴきの子犬こいぬですね。」と蛇へびが言いました。そして

親切しんせつで「宇宙人うちゅうじんに会いたいですか？」と聞きました。

「え、でも．．．ちょっと怖こわいでしょう？」と Puggin が

どもりました。

「一人で砂漠さばくに来るとするのは勇敢ゆうかんなことだと思いません

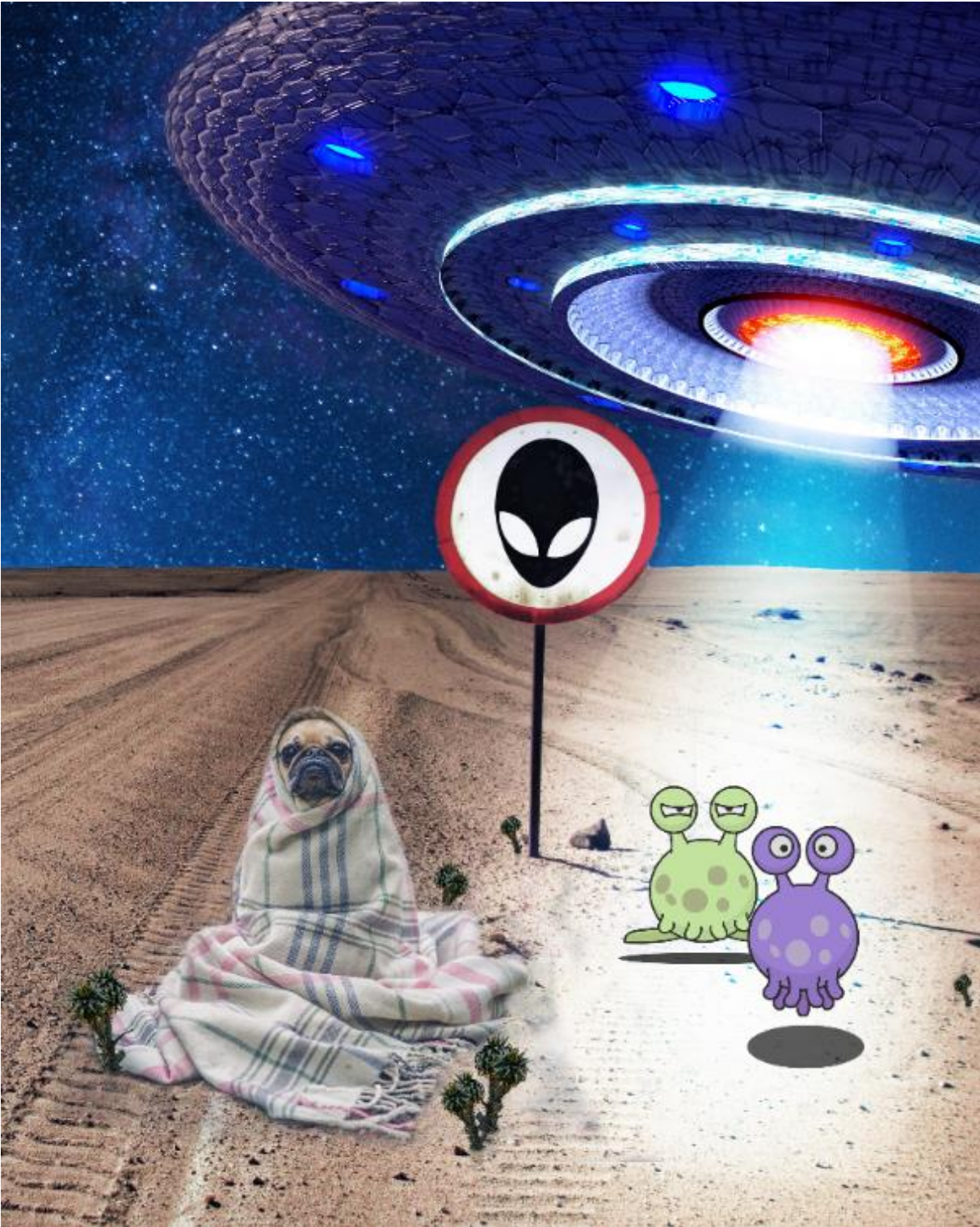
か？」と蛇へびが聞きました。「大丈夫だいじょうぶだと信じれば、何でもできる
と思います。」

「そうでしょうか？」 Puggin は蛇へびの言葉ことばを聞いて、励はげまされ
る気きがしました。蛇へびが言った通りとお、何でもできる気がしました。

「じゃあ、宇宙人うちゅうじんの上陸場じょうりくばはどこですか？」

へび
蛇のおかげで、Puggin は宇宙人が上陸する所に着きました。
た。十五分ぐらい待ってから、いきなり宇宙船がジャジャーンと
あらわ
現れました。強烈な光から、宇宙人がバンッと出て来ました。
「コンニチハ」と宇宙人が変な声で言いました。

海 王 星
「カイオウセイ カラ キマシタ。」



「こんにちは」と Puggin が答えました。「着いたばかりですか？」

「イエ、キノウ ^着 ツキマシタガ、コイヌ ノ ^{群衆} グンシュウ
ガ イタノデ ^怖 コワカッタデス。」

Puggin は「あ！その子犬達は私の友達のはずだ！」とすぐに分かりました。「やっぱり遠い所から来て、その子犬が多いグループを見るとちょっと怖いですよ。みんなはうるさくて、いつも話しているので。」

「すみませんケド、」と宇宙人が言いました。「ボクは ^{うちゅうじん} コ
ノ ^{惑星} ワクセイノ ^詳 コトニ クワシクナイノデ、スコシダケ
^{案内} アンナイヲ シテクレマセンカ？」

「いいですよ！よろこんで！」と Puggin が答えました。

Puggin と宇宙人^{うちゅうじん}は砂漠^{さばく}で遊んだり、サボテンを見たりしました。後で、Puggin は一人^{scorpion}でさそりを食べたり、オアシス^{oasis}で遊んだりしました。電車で帰る時、なぜかホッとしました。友達のみんながいなかったけれど、楽しめたんです。

一人でいても、楽しかったし、寂^{さび}しくはなかったし、悲^{かな}しくはなかったし、ひどいことも起^おこりませんでした。

それに、一人で砂漠^{さばく}へ行ったので宇宙人^{うちゅうじん}に会えました。「一人」ということはいいこともあると Puggin は気がつきました。

「もちろん友達が大好きです」と Puggin は思いました。「でも、一人で時間^すを過ごしてから本当に元気になりました。毎日、毎日みんなと一緒にいるということは私にとってヘルシーじゃないみたいです。時々一人でいるのは私にとって、とても大切^{たいせつ}なことみたいです。」

みんなはそれぞれ違いますね！面白いですね！

— 終わり —